

東尾張ブロック

つなぎあう 心と心 人と人 東尾張が縁つなぎ

東尾張地域は、名古屋市の北東部に位置する瀬戸市、春日井市、小牧市、尾張旭市、日進市、清須市、北名古屋市、東郷町、長久手町、豊山町、春日町の7市4町で構成されております。

会場のある瀬戸市は有田焼や備前焼とともに、日本六古窯の一つで、赤津や黄瀬戸、織部、志野などの「瀬戸焼の瀬戸」として知られ、1300年の歴史を誇ります。ブロック内のいずれの地域も歴史が古く、伝統と文化、豊かな自然に溢れ、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康といった戦国武将との関連も深く、小牧城や長久手古戦場などの名勝旧跡や「棒の手」などの伝統芸能も数多くあります。

また、地元の瀬戸市、長久手町で一昨年開催された国際博覧会「愛・地球博」を契機にボランティア・市民活動も活発になり、団塊の世代を中心に活動意欲が高まってきました。

東尾張ブロックでは福祉、環境保全、協働、まちづくり、災害救援に関わるボランティア活動・ボランティアと市民活動についての5つのテーマ別の分科会を開催します。



定光寺公園

定光寺公園は尾張徳川家の墓所がある應夢山定光寺の麓にあり、春は桜、秋は紅葉狩りと四季を通じて市民の憩いの場となっており、会場への通り道にもなっています。



窯垣の小径

窯垣の小径は瀬戸物を焼く際に使うツク、エンゴロや小皿、茶碗がはめ込まれたものです。今では数も少なくなりましたが、窯垣の小径資料館とともに整備されています。



モリコロパーク

2005年に開催された国際博覧会（愛・地球博）の主会場を担った本公園は博覧会の理念（自然の叡智）を継承し、21世紀に相応しい広域型の都市公園に生まれ変わりました。



小牧山

小牧山は、戦国時代の織田信長の城跡で、小牧・長久手の合戦でも歴史の表舞台に登場しました。現在は、史跡として小牧のシンボリック的存在となっています。



清洲城

郷土の英雄織田信長公の天下布武への足掛りとなった城。現在の城は平成元年に再建され、五条川にかかる赤い橋―大手橋―とともに清須市のシンボルとなっています。



春日井市道風記念館

小野道風生誕の地として伝えられる春日井市は、書道文化が盛んであり、当記念館は、道風筆と伝えられる平安時代の書など2,300点ほどを収蔵した書専門の美術館です。